



若あゆだより

第13号（令和5年6月19日）

岩脇小学校学校だより

2年生の図工「えのぐをたらしたかたちから」～市小教研授業研究会～

6月15日(木)、阿南市小教研授業研究会の図工科授業研究会を本校の2年2組で行いました。市内各小学校の図工科主任さんを中心に約20名の先生方と講師として鳴門教育大学附属小学校の川真田先生が参観してくれました。

活動内容は、①:画用紙に絵の具をたらす、②:画用紙を傾けたり回したりしながら形(模様)を創っていく、③:①②を3色分繰り返す、色や形を重ねていく、というものです。子どもたちは、思い思いに、のびのびと、そしてダイナミックに創作活動を楽しむことができており、「夢中になっている」という表現がぴったりな様子でした。

この活動は次に続きます。今回作った(偶然できた)形や模様が何に見えるかを考え(例えば「この部分は鳥に見える」「ここは車に見える」など)、クレパスで絵を描いていきます。さらにイメージを膨らませて、それらを組み合わせて一つの場面としてとらえ、一枚の絵として完成させていきます。子どもたちが教師の想像を超えるような発想をしてくれることを楽しみにしています。



絵の具をたらして

画用紙を動かして

色を重ねて

友だちの作品を見て

6年生の「いのちの授業」～生まれたことの奇跡～

6月14日(水)、阿南医療センターから助産師さんをお迎えして、6年生が「いのちの授業」を行いました。

生命の誕生について映像や模型を用いながら、詳しく、ていねいに教えていただきました。子どもたちは単に知識を学んだだけでなく、生命の神秘や家族の愛を感じながら、自分の命の大切さについて、改めて考えることができたように思います。



※ 裏面に児童2名の感想を掲載しています。是非、読んでみてください。

水泳学習スタート

6月14日(水)から水泳学習がスタートしています。まだまだ気温・水温とも低めですが、子どもたちは「寒い～」と言いながらも、楽しそうに泳いでいます。

水泳学習は「楽しさ」もある反面、泳げるようになるまでの「苦しさ」を味わうこともある学習です。水泳学習を通して、あきらめないことや努力することの大切さを学ぶとともに、泳げるようになったとき、泳げる距離が伸びたとき、タイムが縮まったときの達成感を味わって欲しいと思います。



流れるプール！

「命の授業」を受けて

名前 ()

ぼくはこの授業を受けて命というのはいくら
くさんの人が支え合ってやっと産まれたもの
なんだなと思いました。みんな一人一人に
は大切な命があってそれは失っては
ならないものとも思いました。家族はそ
うして産まれてきたものなので家族も大切
にしていきたいと思いました。日ごろからお
父さんやお母さんに感謝の気持ちを伝
えていきたいです。自分は世界の中のた
た一人の人なのでこのしゃんかんを奇跡
だと思って生きていきたいなと思いました。

「命の授業」を受けて

私 ()

私はこの授業を受けて家族や周りの人
達に対する気持ちが変わりました。

赤ちゃんを産んでくれたお母さんの話など
たまに聞きますが自分よりも産まれてくる赤
ちゃんを大切にしているんだな、と思っていました。

だけどこの授業を受けて改めてお母さん
ありがとう、と思いました。「おじいちゃんとおばあ
ちゃんに愛されなければお父さんお母さんは産
まれなかった」の言葉で私達は何ものすごい確率で
産まれてきたんだ、と思うようになりました。

私はすでに仲の良い友達がありますがその友達もそんな
奇跡の中産まれてきてくれて私と出会えて今楽しい
んだ、と思いこの体を大切にしよう、と思いました。